

甲状腺髄様癌にて甲状腺腫瘍摘出後も カルシトニンが高値の1例

の 野 津 和 巳¹⁾³⁾ なか 仲 田 典 子¹⁾⁴⁾ なか 中 島 祥 晴²⁾
 たけ 竹 内 薫²⁾ たけ 武 田 真 紀 子²⁾ お 小 田 直 治²⁾
 い 伊 藤 和 行²⁾ なび 並 河 哲 志³⁾ い 伊 東 康 男³⁾
 すぎ 杉 本 利 嗣⁴⁾

キーワード：甲状腺髄様癌，カルシトニン，髄様癌転移

要 旨

甲状腺髄様癌では，カルシトニンやCEAなどの腫瘍マーカーが上昇する。甲状腺髄様癌で左葉を切除し，8年後に右葉に腫瘍を発症した女性例を経験した。カルシトニンの上昇，FDG-PETでの右葉への集積を認め，右葉での髄様癌再発と診断し，右葉切除術を実施した。しかしながら右葉の病理組織所見では，髄様癌の所見を認めなかった。その後もカルシトニンは低下せず，髄様癌の転移巣が存在することが推測された。今後も慎重な経過観察が必要な注意すべき症例であった。

はじめに

甲状腺髄様癌（以下，髄様癌）は甲状腺癌の中でも，きわめてまれな癌であり¹⁾，日常診療で経験することは困難な場合が多い。髄様癌では血中のカルシトニンやCEAなどの腫瘍マーカーが上昇することがよく知られている。また，髄様癌の症例では，多発性内分泌腫瘍症2型の部分症状²⁾

である場合があり，褐色細胞腫などの合併の有無や，家族歴を慎重に聴取する必要がある。今回，孤発例と推測された髄様癌の症例を経験した。

症 例 提 示

症例は60歳台女性。当クリニック受診時の主訴は，髄様癌術後の経過観察である。家族に甲状腺疾患はなく，頸部手術例はない。また副腎の疾患を指摘されたこともない。既往歴にも特記すべきものはない。現病歴は，当クリニックを受診する5年前に，髄様癌で甲状腺左葉片葉摘出術を受けた。病理所見は髄様癌に合致しており，カルシトニン染色やCEA染色で陽性を認めた（図1）。

Kazumi NOTSU et al.

- 1) 大学前のつ内科クリニック
 - 2) 松江赤十字病院耳鼻咽喉・頭頸部外科
 - 3) 島根県立中央病院内分泌代謝科
 - 4) 島根大学医学部内科学講座第一
- 連絡先：〒690-0825 松江学園2丁目27-17
医療法人大学前のつ内科クリニック